

(別紙)

生物基礎 (令和6年1月28日実施)

1. 対象の学部学科 看護学部看護学科

2. 選抜試験区分、試験科目

令和6年度一般選抜試験 (第1回) 生物基礎 (令和6年1月28日実施)

3. ミスの内容

4 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ホルモンは内分泌腺から血中に放出され、血液を介して特定の器官や組織に作用する。ホルモンが作用する器官を (ア) といい、特定のホルモンと結合する (イ) を持つ細胞が存在する。ホルモンは (イ) に結合することで特定の反応を引き起こす。

ホルモン分泌の調節にはいくつかの方式が知られている。チロキシンの場合、図3に示すように血中のチロキシンの濃度が低下すると (ウ) から甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンが分泌される。甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンは (エ) に作用して甲状腺刺激ホルモンを放出させる。甲状腺刺激ホルモンは甲状腺に作用してチロキシンの分泌を促し、血中のチロキシンの濃度が上昇する。一方、インスリンを分泌する (オ) は、それ自身が血中のグルコース濃度の低下に直接反応してインスリンの分泌を盛んにすることができるが、自律神経による制御も受けている。

〔1〕文中および図3中の空欄 (ア) ～ (オ) に最も適当な語をそれぞれの選択肢から一つずつ選びなさい。解答欄は、

ア 28、イ 29、ウ 30、エ 31、オ 32

空欄 (ア) および (イ) の選択肢：

- ① 感覚器官 ② 標的器官 ③ 相同器官 ④ 補体
⑤ 受容体 ⑥ 同位体

空欄 (ウ) ～ (オ) の選択肢：

- ① 大脳皮質 ② 海馬 ③ 間脳視床下部 ④ 中脳
⑤ 小脳 ⑥ 脳下垂体前葉 ⑦ 脳下垂体後葉
⑧ すい臓ランゲルハンス島 A 細胞 ⑨ すい臓ランゲルハンス島 B 細胞

誤) インスリンを分泌する (オ) は、それ自身が血中のグルコース濃度の低下に直接反応して

正) インスリンを分泌する (オ) は、それ自身が血中のグルコース濃度の上昇に直接反応して

4. 対応

当該問題 4 設問〔1〕オ については、問題文が不適切なため採点から除外する

5. 追加合格の有無

無し